

2017年度 学校法人 三幸学園 千葉ビューティーアート専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者 : 副校長 奥 敏幸

学校関係者評価報告責任者 : 学校関係者評価委員会委員長 油井裕子

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ビューティー分野の学校として「人を美しくすることで人を元気にし、日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ビューティー分野として「お客様を美しくすることで感謝される、サロン・組織を活性化できる(皆をハッピーにする)人材を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

人間性を高める教育の実践

「お客様を美しくすることで感謝される人材、サロン・組織を活性化させる人材」を育成することを目指す人材育成方針とし、単に知識や技術を研究するに留まらず、人間性を高める教育を併せて展開することにより、真に社会に役立つ人材を輩出することができると考えている。

高い現場力の醸成

現場で活躍するための基礎力を資格・検定取得をベースに各学科で重点項目として掲げ、指導内容の統一を行うほか、学科会・教科会を実施することにより、進捗状況の確認と教育の質の向上を実現できるよう計画している。

② 学校関係者評価委員会コメント

- ・専門学校は、企業と繋がりが強いことが役割の一つとして求められている。現場で求められている能力やスキルが身に付けられる体系が整っているかが教育の質の高さに比例しているが、その点はしっかりと業界と連携しながら進めている様子が見られる。
- ・以前ネイルスクールから卒業生を輩出した際、卒業後の様子を見に行くと、技術に集中し過ぎてしまい、お客様とのコミュニケーションがとれていない様子が伺えた。専門的な技術の習得も必要だが、コミュニケーションスキルを身に付けさせるために、授業内でもただ静かに黙々と行うのではなく、あえて喋りながら施術をする練習を積むことで、現場で即戦力となる人材を育成できるのではないかと考えている。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

【評価項目】 (評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1)	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

- ・保護者、生徒への学校の理念・目的・育成人材像・将来構想の浸透
- ・教職員の更なる教育理念の理解と実践を図り、指導方法の統一・レベルアップを推進

② 今後の改善方策

- ・ミッション&ビジョンポスターを校内掲示し、HR活動等を通じて理解と浸透を図る
- ・学内研修、授業見学等を通じ、教職員が相互の状況を確認できる体制を強化する

③ 特記事項

- ・教育理念、目標、人材育成像を体系化し全教職員への浸透を図っている
- ・新入生の保護者には保護者会を実施し、副校長、または教務主任から学校教育の理解・浸透を図っている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・現在、親離れ・子離れできていない家庭が多くなったように感じている。美容業界もブライダル業界もサービス業である以上、以前は土日出勤が当たり前だった。しかし、現在はその働き方について働く本人だけでなく、保護者からもご意見を頂く事が増えており、実際に企業側が配慮せざるを得ない場合が出てきている。各職業のプロを目指していく上で、改めてサービス業という職業への理解を専門学校でも促して頂きたい。
- ・お客様とのコミュニケーション方法については、より深くに学びたかった。授業内でロールプレイングを行うなど、より実践的な内容で実施してほしかった。

(2) 学校運営

【評価項目】 (評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1)	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	3
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

- ・ 役職者会議、教科会議、クラス会議、広報会議、教務会議など各会議を活性化させ且つ効率化を図る
- ・ 情報システム化により業務の効率化をさらに推し進める

② 今後の改善方策

- ・ 人材育成方針に沿った学科・コースの目標・計画・進捗を監視・修正できる各会議の実施
- ・ グループウェアの効果的な活用方法の理解・促進

③ 特記事項

- ・ 年6回、定期的に全教職員・講師に向けて会議を実施し運営方針の浸透と情報共有を積極的に行う
- ・ 2015年4月三幸学園システム推進室設置により、グループウェアの活用がより効果的に遂行できるようになり業務の効率化と情報共有が期待できる

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ 最近世間的にも教育機関の問題が多発しており、より教員としての倫理観やコンプライアンス規定などが大切になってきているように感じる。合わせて、全員が遵守する為にも、さらなる周知の徹底が必要になってくるだろう。

(3) 教育活動

【評価項目】 (評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1)	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

- ・キャリア教育を推し進めるために社会ニーズに沿ったカリキュラム・教育方法を開発する
- ・授業評価、実習先評価の精度向上と教育への反映

② 今後の改善方策

- ・提携企業との連携を強化し授業科目の開設と授業方法の改善・工夫を行う
- ・授業評価における評価項目の見直しを実施し教員の質を向上させる
- ・2019年度よりブライダルプロデュース科において、土日のいずれかをアルバイト契約の形でインターンとし、単位として認めていく方向を図っている

③ 特記事項

2015年度より学生による授業評価の見直しが完了。また、実習先（企業）と実習生（学生）による相互評価を実施している

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・次年度より始まるブライダルプロデュース科有給型インターンシップは、非常に良い取り組みだと思う。実際、就職活動にも影響があるため、積極的に取り組んでもらいたい。
- ・2週間の実習では、期間が短くかつ1つの企業しか見ることができないため、複数企業が見られると就職活動の際に比較もできるため、さらによいのではないか。
- ・2週間では、環境に慣れるだけで終わってしまっていたので、現場で必要な力を身に付けるためには、長期期間の実習の方が良い。また、就職活動の際にも短期間の実習では、他の就活生と比べるとアピールポイントとしては弱いため、長く現場を見ることができた方が専門学生は強みとして話しやすいのではないか。

(4) 学修成果

【評価項目】 (評価=適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1)	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・進路決定率・資格取得率の更なる向上
- ・退学者の低減
- ・卒業生の社会的活躍の情報収集と教育活動への反映

② 今後の改善方策

- ・資格取得への動機づけの強化及び就職サポート、HRなど環境面への整備
- ・退学者プロジェクトに基づき、クラス報告会の実施と退学防止事例の共有を実施
- ・卒業生によるキャリアガイダンスなど講演や特別授業などを実施
- ・教員による企業訪問で現代のニーズに合った専門性の向上を図る

③ 特記事項

- ・2017年度退学率 TB科：9.3% BP科：14.0%
- ・2017年度進路決定率 TB科：84.2% BP科：94.7% (2018年3月31日現在)

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・高校時代、専門学校への進学を選択する際、将来のビジョンが見えていない生徒は進学後に目標喪失になってしまいやすいように感じる為、入学後に将来の目標を明確にさせる必要があるのではないか。また合わせて、施術をすることだけでなく、接客をすること楽しさや働くことへのやりがいなども一緒に伝えていった方が良いのではないかと。その為にも、実際に現場で学ぶことができる実習を有効活用してもらいたい。
- ・学校にはすごく熱心で生徒想いの教員が多かった。
何となく入学してきた生徒に対して、現場を見る機会や企業様の講話などの機会がさらに増えると職業の魅力がわかり、退学を抑制できるのではないかと。
- ・最近の社会的ニーズも踏まえながら授業内容を展開していく必要がある。また、サービス業に対する理解を生徒はもちろん保護者様へも理解を求めていく必要がある。

(5) 学生支援

【評価項目】 (評価=適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1)	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	2
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

- ・保護者との連携は問題行動のある生徒に偏る傾向がある
- ・卒業生への支援体制を構築する

② 今後の改善方策

- ・定期的な保護者との連携を強化（学校行事見学、保護者通信の送付）
- ・更なる卒業生との連携強化を図るため同窓会サイトSANKO LINK を活用する
- ・業界内の就職を増やすためにエリア毎に担当をわけ、企業とのつながりを今後強化していく
- ・具体的に卒業生を支援していく体制を整えていく

③ 特記事項

- ・カウンセリングルームを設置し整備はできているがまだまだ活用ができていないためカウンセリングルームを周知させる
- ・飛鳥未来高校にて「職業理解のためのガイダンス」を実施している
- ・学生に通知が届く情報発信ツール『スタディサプリ連絡帳』の運用を開始
- ・2016年度よりUターンを支援する『ふるさとサポート』制度を実施
- ・2018年度より卒業生を支援する、卒業生支援制度を実施。独立を目指す卒業生のサポートをしていく
- ・2018年度よりWi-Fi環境を整備している

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・卒業生支援制度については、若い意欲のある方を学校が応援していることは今後の業界発展にもつながる良い取り組みだと思う。

(6) 教育環境

【評価項目】 (評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1)	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設, インターンシップ, 海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

- ・更に質の高い教育を目指し、教育環境・体制を整備する
- ・防災、災害への更なる高い意識

② 今後の改善方策

- ・関連企業との連携を強化し、学外実習を更に充実した内容にする
- ・生徒への防災への啓蒙と緊急時対応の危機管理を全教職員に周知徹底する

③ 特記事項

- ・避難訓練の実施

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・施設が充実しており、特に問題なく十分に感じる。
- ・校内にチャペルやバンケットがあることは、実践的に学べてよい。ここまで充実している学校は中々ないように思う。ただし、授業内容と連動して、さらに備品等が完備されるとよりよくなるのではないだろうか。

(7) 学生の受入れ募集

【評価項目】 (評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1)	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- ・学生募集活動は適正に行っているが、入学後の学生状況や進路状況が適切に伝えられていない

② 今後の改善方策

- ・教育成果を高校の先生へ伝える
- ・広報担当部署との連携を強化していく
- ・2018年度から、教員自身が高校訪問を実施し、教育成果の伝達や、在校生の状況などを確認する

③ 特記事項

- ・学納金は、教育研究費、人件費、施設管理費などを算出基盤としている
- ・学納金の決定に際しては、他校の学費水準も把握した上で決定している

③ 学校関係者評価委員会コメント

- ・募集状況は昨年度と比べても順調に推移しているように思う。必要書類等もしっかり整備されており、特に問題はないように思う。飛鳥未来高校としては隣の施設ということもあるかもしれないが、入学後の状況や学校生活・就職状況など、生徒の頑張りが見えるので、送り出してからも安心している。専門学校側から高校へ訪問することも行くことも必要だが、高校の先生を行事に呼ぶなど、見に来てもらう施策をとっても良いのではないだろうか。
- ・オープンキャンパスでは、教員としっかり相談する機会があり、平日は実際の授業の様子を見ることができたので、どんな学校なのかわかりやすかった。私自身、見学をされていて入りたいと思う学校だった。

(8) 財務

【評価項目】 (評価=適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1)	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

昨年度に第2次中期計画を策定している。今後は当該計画の公開に向けて着手していく予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

【委員コメント】

・特に問題はないのではないかと。

・現在もホームページに情報は掲載している。最新の情報も今後掲載する予定。

(9) 法令等の遵守

【評価項目】 (評価=適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1)	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

- ・更なる法令遵守の推進

② 今後の改善方策

- ・会議や掲示物等を通じて、すべての職員に法令順守に対する啓蒙を積極的に実施していく

③ 特記事項

- ・2015年度自己評価結果より公開を開始

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・情報公開することが社会的にも求められているため、それはできている。法令については、知らなければ守れないため、周知徹底していくことが必要となる。

(10) 社会貢献・地域貢献

【評価項目】 (評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1)	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

- ・ ボランティア活動をさらに活性化させる
- ・ 地域に対する公開講座が少ない

② 今後の改善方策

- ・ ボランティア活動を積極的に進めていく
- ・ 提携企業との連携を強化する

③ 特記事項

- ・ 千葉ロッテマリーンズ主催試合でのビューティーブース設置
- ・ スチューデントサロンを毎週開催し、地域の方に施術提供
- ・ くまざわ書店ペリエ千葉店でハロウィンイベントに参加、お子様対象にボディイベントを実施
- ・ 授業内で近隣老人ホームに出向き、ハンドマッサージを実施

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ 地域の方との交流は必要だと思う。老人ホームへのボランティア活動は喜ばれるので、引き続き行ってほしい。
- ・ ご年配の方の実体験や当時の状況などを教えてもらうことが、学生の職業理解へのヒントになったり学びのきっかけになることもあるのではないかな。
- ・ 保育園があるので、キッズネイルなど簡単な施術をしたり、ドレスを着せるなど子ども向けに何か実施してもおもしろいのではないかな。

(11) 国際交流（必要に応じて）

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	3
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	3

① 課題

- ・留学生に対して、積極的な募集活動を行えていない現状がある

② 今後の改善方策

- ・留学生向けのホームページ上コンテンツの強化
- ・留学生に対する説明会、ガイダンスの実施回数を増加
- ・留学生に対する就職先の確保、母国の業界状況の把握、母国の就職斡旋等を強化する

③ 特記事項

- ・2014年度から「留学生学費減免入学」制度を実施している
- ・日本語学校の開設
- ・2017年度、2018年度、台湾から3名の留学希望学生の学校見学実施
- ・2017年度、1名韓国からの留学生を受け入れ

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・高校に在籍している生徒もアジア国籍、またご両親のいずれかが外国籍という生徒も多い。アジアの中で、日本は美容の技術などは進んでいると言われているので、もっと積極的に留学生へ案内してもよいのではないかと。他校では、留学生用クラスを設けている学校もあるため、受入れ体制がさらに整うとより良いのではないかと。
- ・留学生は母国で一通り学んだ後に日本へ来るので、年齢としては20代後半以降の生徒が多い。そのため高い意欲をもって入学してくるため、他生徒の刺激にもなっている。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

各教員間において、リアルタイムの情報共有と連携を図ることにより、担任力の強化や学校全体として教務力の向上に力をいれていき、退学率の低減を確実に進めていく。また、教育内容の充実と質の向上をめざし取り組んでいくことが必要である。そのためにも教員自身一人ひとりが責任感を持って行動することが大切である。学校の取り組みや体制を全教職員に理解・浸透させていき、自己評価の結果を踏まえ、業界や地域からも信頼され必要とされる学校になるように、課題解決に取り組みながら学校運営をしていく必要がある。

学校関係者評価委員会コメント

- ・高校内でも美容系に進学を決めた学生の中が、一番選ぶことが多いなど、徐々に高校生から選ばれている学校となってきているのではないかと感じている。課題点は引き続き改善していただきたい。
- ・卒業生のレベルが年々あがっているように感じる。戦力になるような卒業生を引き続き排出して頂きたい
- ・サポート制度や施設など充実しており、学生にとって良い環境だと思う。
- ・社会に出て、学んできたことが実際に役に立っている。現在の職場では、お母さまの留袖を直すなど、特に着付けの知識がお客様のフォローをする際に助かっている。ブライダルだけでなく、美容の知識も学べて良かった。また、相談すればすぐに相談にのってくれる教員が多く、学びやすい環境だった。
- ・施設が充実しており、また教員も熱心で充実した学校生活を送ることができた。ただ、前述したような実習期間が短い点は検討して頂きたい。また、現在勤めている日本橋店では、海外のお客様が増えつつある。そのため今後英語など外国人とのコミュニケーションの取り方が学べるとより現場で活躍できるのではないかと感じている。合わせて、ボランティア活動を通じてコミュニケーションスキルが身に付いたので、さらに積極的に行っていただきたい。

以上